

レビ記26章「土地に対する祝福と呪い」

1A 主の聖別 1-2

2A 主からくる祝福 3-13

1B 豊かな収穫 3-5

2B 平和と安全 6-10

3B 主の臨在 11-13

3A 背きに対する懲らしめ 14-46

1B 恐怖の訪れ 14-17

2B 飢饉 18-20

3B 獣の襲撃 21-22

4B 敵の包囲 23-26

5B 町の破壊 27-33

6B 土地の安息 34-35

7B 怯える捕囚生活 36-39

8B 契約を思い起こす神 40-46

1C 悔い改める民 40-41

2C 絶ち滅ぼさなかった方 43-45

4A シナイ山での掟 47

本文

レビ記 26 章を開いてください。私たちのレビ記の学びは、26 章に入ります。これまで、土地についての神の教えを見てきました。そこには、神ご自身が土地を持っておられて、それを尊ぶために安息年があり、またヨベルの年があることを学びました。そして、土地を売り払っても、近親者が買い戻すという、買い戻しの権利も神は定められました。このようにして、神ご自身がすべてを持っておられて、私たちは、神のものを任されているということを知ります。その前には、土地からの収穫を献げる祭りを学びました。収穫も主のものであることを認めることで、主を聖なる方とします。

そして 26 章は、その土地において、主の掟を守る時には土地からの祝福があり、そうでないときには土地に呪われているという言葉を読みます。呪われているというよりも、主の懲らしめを受けるといったほうがいいでしょう。イスラエルには神の契約があるので、たとえその呪いを受けても、主は絶ち滅ぼすことはせず、むしろ彼らがへりくだり、ご自身に立ち返ることを願っておられます。

アダムが罪を犯したときに、土地がどうなったかを思い出してください。「創 3:17-19 また、人に言われた。「あなたが妻の声に聞き従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べた

ので、大地は、あなたのゆえにのろわれる。あなたは一生の間、苦しんでそこから食を得ることになる。大地は、あなたに対して茨とあざみを生えさせ、あなたは野の草を食べる。あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」罪ゆえに、主の守りがなくなり、土地が荒れすたれたままにされるということが、ご自分の民にも起こるということです。

1A 主の聖別 1-2

¹ あなたがたは自分のために偶像を造ってはならない。また自分のために彫像や石の柱を立ててはならない。あなたがたの地に石像を立てて、それを拜んではならない。わたしがあなたがたの神、主だからである。² あなたがたはわたしの安息日を守り、わたしの聖所を恐れなければならない。わたしは主である。

主は、十戒を始めとする、様々な掟を与えられましたが、ここでは、単純な掟に絞っておられます。一つは偶像を捨てなさい、次に、主を聖なるものとしなさいということです。安息日に主をあがめて、聖所すなわち幕屋や神殿で礼拝を献げます。パウロが、テサロニケの人たちに第一の手紙でこう言いました。「1:9b-10a あなたがたがどのように偶像から神に立ち返って、生けるまことの神に仕えるようになり、御子が天から来られるのを待ち望むようになったかを、知らせているのです。」偶像から離れて、生けるまことの神に立ち返ります。テサロニケの人たちも、ギリシア神話の神々、ローマの神々に取り囲まれて生きていました。それらを離れて、主イエスに仕えるのです。

2A 主からくる祝福 3-13

1B 豊かな収穫 3-5

³ もし、あなたがたがわたしの掟に従って歩み、わたしの命令を守り、それらを行うなら、⁴ わたしは時になつてあなたがたに雨を与える。それにより地は産物を出し、畑の木々はその実を結ぶ。⁵ あなたがたの麦打ちはぶどうの取り入れ時まで続き、ぶどうの取り入れは種蒔きの時まで続く。あなたがたは満ち足りるまでパンを食べ、安らかに自分たちの地に住む。

主は、イスラエルの民を祝福したいと願われています。乳と蜜の流れる地に導き入れるのが、みどころです。そこで、イスラエルが主ご自身に従っている中で、主の祝福するお働きが、川の流れのように流れてきます。その主なものは、地から出る産物です。畑から出る実です。主は、アブラハムにこの地を与えると約束されましたが、約束の地において、主ご自身の実を見ることができるのです。私たちも、主を信じるその信仰のゆえに、神の祝福が御霊によって与えられ、それで、実を結ぶことができます。

5 節に書かれていることは、収穫が豊かなので、それを刈り取るのが長いことかかる、ということです。大麦の収穫が四月、小麦の収穫が五月にあります。そしてぶどうは八月の収穫です。種を

蒔くのは十月以降です。つまり、麦打ちがぶどうの刈り入れまで、つまり八月頃まで続き、そしてぶどうの収穫が種蒔き、つまり十月まで続くということです。

そして、満ち足りて、安らかにすみます。主にあって満ち足りること、また安らかにあること、これが彼らに対する神の目的でした。今のユダヤ人もそうです。約束の地に戻ってきて、そこで満ち足りて安らかに過ごすことが、長年の離散の歴史で虐げられてきた中で、イスラエルの中で切望していることです。私たちキリスト者も、霊的にこのことを願っています。「I テモ 6:6 しかし、満ち足りる心を伴う敬虔こそが、大きな利益を得る道です。」

2B 平和と安全 6-10

⁶ また、わたしはその地に平和を与える。あなたがたはだれにも脅かされずに寝る。また、わたしは悪い獣をその国から除く。剣があなたがたの地を行き巡ることはない。

主が次に与えられるのは、平和と安全です。安全は、この日本に住んでいるとそれがいかに貴いものかがわかりません。けれども、当時の人々はいつ何時、強盗に襲われるかわかりません。周囲の敵から攻撃されるかもしれないです。ですから、町といえばそれは城であり、壁に囲まれているところに住まなければいけません。また、野獣がいて、それで引き裂かれることもしばしばありました。イスラエルは荒野にいる時には、アマレク人が襲ってきました。また、自分たちは戦争を望んでいないのに、ただ通過することだけを願ったのに、宣戦布告されて、それでヨルダン川東岸のカナン人と戦わなければいけなかったのです。しかし、そうした戦いも止みます。

⁷ あなたがたは敵を追い、彼らはあなたがたの前に剣で倒れる。⁸ あなたがたの五人は百人を追い、百人は一万人を追う。あなたがたの敵はあなたがたの前に剣によって倒れる。

そして、その戦いにおいて、それが彼らの戦い以上に、主ご自身の戦いであることがわかります。どうして、五人が百人を追うことができるでしょうか。百人が一万人を追うことができるでしょうか？それは、主ご自身が将軍となり、彼らのために戦ってくださるからです。その奇跡を、ヨシュアたちは見ました。また士師ギデオンも見ました。三百人が十三万五千人のミディアン人を倒しました。そして、近現代においてはイスラエルが中東戦争で目撃しました。

⁹ わたしはあなたがたを顧み、多くの子を与えてあなたがたを増やし、あなたがたとのわたしの契約を確かなものにする。

平和で安全であることで、子沢山になります。子どもは、平和で安全な環境がなければ育てることができません。しかし、主が保障してくださるので生むことができます。そして、子どもが増えることについては、アブラハムに対する約束、星の数のように、海の砂のようになるという契約の

中に入っているものです。そしてこれは、最初の人アダム、そしてノアにも与えられていた約束です。生めよ、増えよ、地に満ちよ、であります。

霊的な祝福は、キリストを信じる信仰に連なる者たちが増えるということは、祝福でしょう。十字架につけられ、よみがえられたイエス様が、ご自身を信じる者たちを見て、満足している姿が、イザヤ書で預言されています。「53:10-11 しかし、彼を砕いて病を負わせることは【主】のみこころであった。彼が自分のいのちを代償のささげ物とするなら、末長く子孫を見ることができ、【主】のみこころは彼によって成し遂げられる。「彼は自分のたましいの激しい苦しみのあとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を負う。」

¹⁰ あなたがたは長く蓄えられた古いものを食べ、新しいものを前にして、古いものを片付けるようになる。

これも平和と安全が保障されているので、起こっていることです。土地の生産性があがります。あふれるほどに、あり余るほどになります。

3B 主の臨在 11-13

ここまでは、目に見える形での土地における祝福でしたが、次は目に見えない祝福、霊的な祝福です。主ご自身が共におられるということです。

¹¹ わたしは、あなたがたのただ中にわたしの住まいを建てる。わたしの心は、あなたがたを嫌って退けたりはしない。

すばらしいです、主ご自身が彼らの間に住まわれます。これは、具体的にはエルサレムにおける神殿です。そして、ともにおられるのに、彼らのことを受け入れます。嫌ったり、退けたりしません。このような祝福に、私たちは預かっていますね。イエス様が肉体を取られて、私たちの間に住まわれました。そして、御霊によって今、ともにいてくださいます。パウロがコリントの人たちに第一の手紙で話しました。「I コリ 3:16 あなたがたは、自分が神の宮であり、神の御霊が自分のうちに住んでおられることを知らないのですか。」

¹² わたしはあなたがたの間を歩み、あなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。

この祝福が何度も何度も、聖書では約束されています。神が私たちの神になること、そして民が神の民となることです。このような結びつきができます。天におけるエルサレムでは、この約束の宣言があります。「黙 21:3 私はまた、大きな声が御座から出て、こう言うのを聞いた。「見よ、神の幕屋が人々とともにある。神は人々とともに住み、人々は神の民となる。主ご自身が彼らの神とし

て、ともにおられる。」

¹³ わたしはあなたがたの神、主である。わたしはあなたがたを奴隷の身分から救い出すために、エジプトの地から導き出した。わたしは、あなたがたのくびきの横木を砕き、あなたがたが自立して歩めるようにした。

主が、民を救われたことを何度も思い起こさせています。彼らを奴隷の身分から救い出して、自立して歩めるようにするためです。神の所有の民となることによって、ほかの何者にも支配されないようにしてくださいました。この自由を得るために、主は救われたのです。私たちも同じです。「ガラ 5:1 キリストは、自由を得させるために私たちを解放してくださいました。ですから、あなたがたは堅く立って、再び奴隷のくびきを負わされないようにしなさい。」罪の奴隷から解放されて、主の愛以外のものに、縛られることはありません。

3A 背きに対する懲らしめ 14-46

ここまでは、主の掟を守っていくときにある神の祝福です。次からは、彼らが主に反逆し、契約を捨てる時に起こることです。

1B 恐怖の訪れ 14-17

¹⁴ しかし、もし、あなたがたがわたしに聞き従わず、これらすべての命令を行わないなら、¹⁵ また、わたしの掟を拒み、あなたがた自身がわたしの定めを嫌って退け、わたしのすべての命令を行わず、わたしの契約を破るなら、^{16a} わたしもあなたがたに次のことを行う。

ここでの彼らの姿勢は、ちょっとした間違いを犯してしまっているというものではありません。もっと心の姿勢です。主なる神に対しての愛といってもいいでしょう。それが冷え切って、かえって主のことを苦々しく思い、意図的に契約を捨てている態度です。

「聞き従わず、これらすべての命令を行わない」とあります。この「すべて」は、全面的に聞かないということです。そして意図的に、「わたしの掟を拒む」「あなたがた自身がわたしの定めを嫌って退け」と強調しておられます。ここで使われている言葉は、「喧嘩腰で敵意を持って会う」のような意味があるそうです。

^{16b} わたしはあなたがたの上に恐怖を臨ませ、肺病と熱病で目を衰えさせ、心をすり減らさせる。あなたがたは種を蒔いても無駄である。あなたがたの敵がそれを食べる。

主がここで語られているのは、先ほどの平和と安全と正反対のことです。恐怖です。その恐れゆえに、心をすり減らせ、肺病にも熱病にもなっています。それによって視力さえ衰えている姿で

す。そして、収穫があっても敵が襲ってきて奪い取ってしまいます。

¹⁷ わたしはあなたがたに敵対してわたしの顔を向ける。あなたがたは自分の敵に打ち負かされ、あなたがたを憎む者があなたがたを踏みつける。あなたがたを追う者がいないのに、あなたがたは逃げる。

この言葉は、とても厳しいですね。「敵対してわたしの顔を向ける」と言われています。これは、間違っただけではないのですが、主を求めているのに、敵対しているではありません。彼らが主ご自身に意図的に背を向けているので、神がその選択を尊重せざるを得ないことを示しています。彼らが主に背くのであれば、主はその背くままにして、自分のしていることのままにしておかなければ、彼らの選択の自由を尊重することになりません。人には、神を愛することも、憎むこともできる自由意志が与えられています。人が神を憎むときに、神はご自分の性質のゆえ、その憎しみの中に置いたままにしないといけないのです。

神の愛は、その人が悪を行ってそのままでもいいのだよというような愛ではありません。それは真実な愛ではありません。真実な愛は、正義に基づいています。つまり、彼らが何とかして不義から立ち直って、主のところに戻ってくることを願うはずで、悪を悪とみなすこと、それを主はここでやっておられるのです。

それで、そもそも敵は虎視眈々とイスラエルを狙っています。主に彼らが従っているときは、主ご自身が守っていました。けれども、背いているのですから、その主の守りから自ら離れているのです。敵の攻撃に自ら晒しています。それから、追う者がいないのに逃げているのは、そのような攻撃を繰り返して受けて、心が恐れて満ちていて、実態のない恐れによって逃げているのです。戦いときは、恐れを恐れよ、とよく言われます。恐れが大敵ですが、見事に負けています。

2B 飢饉 18-20

¹⁸ もし、これらのことが起こっても、あなたがたがなおわたしに聞かないなら、わたしはさらに、あなたがたの罪に対して七倍重く懲らしめる。

「七倍重く懲らしめる」という表現が出てきました。これが、何度となく続きます。その程度が極めて強くなるという意味の言い回しです。「七」という数字によって、神の完全さが表れています。黙示録でも、七つの封印が解かれると、七つ目の封印によって七つのラッパが始まり、七つ目のラッパが吹き鳴らされると、次に七つの鉢が地上にぶちまけられました。

¹⁹ わたしは、自分の力を頼むあなたがたの思い上がりを打ち砕き、あなたがたの天を鉄のように、あなたがたの地を青銅のようにする。²⁰ あなたがたの力は無駄に費やされる。あなたがたの地は

産物を出さず、地の木々も実を結ばない。

乳と蜜の流れる地であっても、天からの恵みが閉ざされます。それゆえ地上が青銅のようになります。産物を出さず、木々の実が結ばれません。どんなに力を出しても、実が出ないのです。なんとというに呪いでしょうか！しかし、それは私たちが神なしに自分の力で生きているときの結果です。

ここで主は、「自分の力を頼むあなたがたの思い上がり」と仰っていますが、それは豊かな収穫について、まことの神に感謝しなかったこと、それが当たり前だと思っていたことがあります。モーセは申命記でも、最後の説教で何度となく、自分に力があると思いがることのないように戒めます。豊かにされると、それが神の恵みであることを忘れます。安息をとることは、それは働きをやめて、自分たちのおかげではなく、神のおかげで今の自分が自分なのだと、へりくだることができるのです。けれども、それをしないと高ぶるのです。私たちへの警告でもあります。

具体的には飢饉の姿は、イスラエルとユダのそれぞれの王国で見ることになります。イスラエルでは、アハブが王である時に、エリヤが三年間、雨が降らないことを宣言しました。

²¹ また、もしあなたがたがわたしに逆らって歩み、わたしに聞こうとしないなら、わたしはさらに、あなたがたの罪にふさわしく、七倍激しくあなたがたを打ちたたく。²² わたしはまた、あなたがたの間に野の獣を放つ。これはあなたがたから子を奪い、家畜を絶えさせ、あなたがたの数を減らす。こうして、あなたがたの道は荒れ果てる。

獣の襲撃が多くなります。イスラエルの初代王ヤロブアムに対して預言を行なった、ユダからの人は帰る途中、獅子に噛まれて死んでしまいました(1列王 13:24)。道は獣が出てきたので、人が寄り付かなくなり、荒れ果てていきました。

ここまで見て、いかがでしょうか？主が前もって警告されているのに気づいていないです。主が、それでもっと大きな拡声器で、それらの災いを通して注意喚起をしておられるのです。イエス様が、同じような警告をされたことを思い出します。「ルカ 13:1-5 ちょうどそのとき、人々が何人かやって来て、ピラトがガリラヤ人たちの血を、ガリラヤ人たちが献げるいけにえに混ぜた、とイエスに報告した。イエスは彼らに言われた。「そのガリラヤ人たちは、そのような災難にあったのだから、ほかのすべてのガリラヤ人よりも罪深い人たちだっと思いませんか。そんなことはありません。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。また、シロアムの塔が倒れて死んだあの十八人は、エルサレムに住んでいるだれよりも多く、罪の負債があったと思いませんか。そんなことはありません。わたしはあなたがたに言います。あなたがたも悔い改めないなら、みな同じように滅びます。」

ガリラヤ人のことも、シロアムの塔が倒れて死んだ人々のことも、それが自分たちに対する注意喚起なのだということを全く気づかないで、他人事のようにして、彼らの罪のせいなのか？と思っているわけです。同じようにして滅びるのだという声を聞いて、悔い改めないといけないのです。

4B 敵の包囲 23-26

²³ もし、それでも、わたしのこの懲らしめをあなたがたが受け入れず、わたしに逆らって歩むなら、
²⁴ わたしもあなたがたに逆らって歩む。また、わたしは、あなたがたの罪に対して七倍重くあなたがたを打つ。²⁵ わたしはあなたがたの上に剣を臨ませ、契約による復讐を果たす。あなたがたは自分たちの町々に集まるが、わたしがあなたがたの間に疫病を送り込むので、あなたがたは敵の手に落ちる。²⁶ わたしがあなたがたのパンの蓄えをなくすとき、十人の女が一つのかまどでパンを焼き、秤にかけてパンを配る。あなたがたは食べても満ち足りない。

次の神の懲らしめは、さらに激化しています。「わたしはあなたがたの上に剣を臨ませ、契約による復讐を果たす。」とまで言われます。彼らの行っている悪に対して、悪で臨むということです。具体的には、敵に町が包囲されることをお許しになります。

それぞれの家で窯を使う燃料がないので、十人が一度に同じ窯を使っています。しかも、普通なら一つの家庭で一つの窯が必要だったのに、十人が使っても十分な位、非常に少量のパンだったのです。そして、何十グラムとかいう単位で、残り少ないパンを計ることで、食いつないだ様子がここに書かれています。また、空腹で体が弱まっている時には、免疫力がなくなっているので疫病も蔓延します。また包囲されているので、衛生状態も悪くなり疫病の蔓延を進ませます。

列王記第二 6 章で、アラム軍に包囲されたサマリアで、わずかな食べ物が高額で売られている姿が出てきます。またエゼキエル書では、エゼキエルが演じて、わずかなパンを落とさないようにこわごわ食べている様子が出てきます。

5B 町の破壊 27-33

²⁷ これにもかかわらず、なおもあなたがたが、わたしに聞こうとせず、わたしに逆らって歩むなら、
²⁸ わたしは激怒をもってあなたがたに逆らって歩み、あなたがたの罪に対して七倍重くあなたがたを懲らしめる。

主の御怒りの度合いは極みに達します。

²⁹ あなたがたは自分の息子の肉を食べ、自分の娘の肉を食べる。

あまりにも困窮して、赤ん坊の肉を食べます。今、話した、サマリアの町で、そのことが起こった

ことを話しました。

³⁰ わたしはあなたがたの高き所を打ち壊し、香の台を切り倒し、偶像の残骸の上にあなたがたの死体を積み上げる。わたしの心は、あなたがたを嫌って退ける。

これは外国が、自分が征服した民を侮辱するため、彼らが拝んでいる神の祭壇に彼らの死体を置くことで、その祭壇を汚しているのです。エレミヤの預言を見ると、バビロンはユダの国に対して行っていたことがわかります。

³¹ わたしはあなたがたの町々を廃墟とし、あなたがたの聖所を荒れ果てさせる。わたしはあなたがたの芳ばしい香りをかぐことはしない。

これが、バビロンによってエルサレムが破壊された時に起こりました。哀歌がそれを詳しく描いています。そして紀元 70 年には、ローマが破壊します。主が真ん中に住まわれるといわれたところが、このような荒廃に至ってしまうのです。

³² わたしはその地を荒れ果てさせ、そこに住むあなたがたの敵はそれを見て啞然とする。³³ わたしはあなたがたを国々の間に散らし、剣を抜いてあなたがたの後を追う。あなたがたの地は荒れ果て、あなたがたの町々は廃墟となる。

エルサレムの破壊は、さすがの敵も啞然となります。バビロンによってエルサレムが滅ぼされた時に、周囲のいたペリシテ、エドム、モアブ、アンモンなどのことを指しているのでしょう。それから、彼らが戻ってくることはないように、主は剣をもって彼らを追い払うといわれます。イスラエルは、遠くバビロンに捕え移されました。

6B 土地の安息 34－35

³⁴ そのとき、その地が荒れ果て、あなたがたが敵の国にいる間、その地は休む。そのとき地はその安息を享受する。³⁵ 地は、荒れ果てている間、休むことができる。それは、あなたがたがそこに住んでいたとき、あなたがたの安息のときには得られなかったものである。

ここです、安息年について、イスラエルの人たちは守らないことが預言されています。ユダヤ人が捕囚の民となって、七十年間、その土地は荒れ果てましたが、それでようやくこの地が休むことができるのです。これが、主を聖なる方として、安息を守らなかったことの結果です。主ご自身が介入して、土地を休ませるのです。主は、人々の反抗に対して、このようにして鎮ませるのです。ご自身が神であることを示されます。

7B 怯える捕囚生活 36-39

³⁶ あなたがたのうちで生き残る者にも、敵の国にいる間、彼らの心の中に臆病を送り込む。吹き散らされる木の葉の音にさえ彼らは追い立てられ、剣から逃れる者のように逃げ、追いかける者もないのに倒れる。³⁷ 追いかける者もないのに、剣から逃れるかのように折り重なってつまずき倒れる。あなたがたは敵の前に立つこともできない。³⁸ あなたがたは国々の間で滅び、あなたがたの敵の地はあなたがたを食い尽くす。

離散の民となってから、イスラエル人の生活はここに書かれている通りになりました。敵国において脅かしと恐れの日々を歩んでいました。紀元 70 年後のユダヤ人の離散生活は、迫害と虐殺の連続でした。そして、先ほど出てきた荒れ果てた地というの、ユダヤ人が十九世紀にイスラエルの地に帰還を始める前までは、沼地と荒地しかなかったと言われていました。実に、イスラエルは、祝福のみならず、裁きにおいても神の存在を世界に知らしめる証人となっていたのです。

そして私たちが知らなければならないのは、この離散の状態こそ神が最もイスラエルに経験してほしいでなかったことなのです。主が何度も何度も、「わたしは、あなたがたをエジプトから連れ出した神である」と宣言されました。それは、彼らが奴隷状態になっていることを神ご自身が最も望んでいなかったからです。それで、彼らにイスラエルの地を与えられたのです。ところが、その初めの状態に戻ってしまいました。これは悲惨です。

³⁹ あなたがたのうちの生き残る者も、敵の地で自分の咎のために朽ち果てる。さらに先祖の咎のために朽ち果てる。

先祖の咎でもあるし、そして本人たちの咎でもあります。

これは、キリスト者に対する警告でもあります。ペテロが第二の手紙でこう言っています。「Ⅱペテ 2:20 主であり、救い主であるイエス・キリストを知ることによって世の汚れから逃れたのに、再びそれに巻き込まれて打ち負かされるなら、そのような人たちの終わりの状態は、初めの状態よりもっと悪くなります。」初めから知らずに罪に溺れていることのほうが、知ってから溺れるよりはましだ、とペテロは言っています。

8B 契約を思い起こす神 40-46

しかし、主は見捨てられていませんでした。ここが最も大事なメッセージです。

1C 悔い改める民 40-41

⁴⁰ 彼らは、自分たちの咎と先祖の咎を、つまり、わたしの信頼を裏切って、わたしに逆らって歩んだことを告白するが、⁴¹ このわたしが彼らに逆らって歩み、彼らを敵の国へ送り込むのである。もし

そのとき、彼らの無割礼の心がへりくだるなら、そのとき自分たちの咎の償いをするようになる。

ついに彼らが、自分たちが主に対して罪を犯したことに気づきます。今はただ、理由なき災いが自分たちに襲いかかっているのではなく、主に反抗していたのだということに気づきます。これが、主がイスラエルに望まれていたことでした。ここに「無割礼の心」とありますが、男性の性器が包皮があることによって感覚が鈍るのと同じように、心が神の声に対して鈍くなっていたのです。けれども、これが神の懲らしめの目的であり、懲らしめによってその罪の愚かさに気づき、自らその罪を嫌い、憎むことを選び取ることができます。

2C 絶ち滅ぼさなかった方 43-45

⁴² わたしはヤコブとのわたしの契約を思い起こす。またイサクとのわたしの契約を、さらにはアブラハムとのわたしの契約をも思い起こす。わたしはその地を思い起こす。

ここで、主は契約を必ず忘れることはありません。エジプトでイスラエル人が労役で苦しんでいた時も、アブラハム、イサク、ヤコブと結ばれた契約を思い起こされて、それで彼らをエジプトから贖いだされました。ここでも同じです。主の約束は決して反故にされることはないのです。

その約束の力強さを、主は誓いをもってアブラハムに行われていました。「ヘブ 6:13-19 神は、アブラハムに約束する際、ご自分より大いなるものにかけて誓うことができなかつたので、ご自分にかけて誓い、「確かにわたしは、あなたを大いに祝福し、あなたを大いに増やす」と言われました。このようにして、アブラハムは忍耐の末に約束のものを得たのです。確かに、人間は自分より大いなるものにかけて誓います。そして、誓いはすべての論争を終わらせる保証となります。そこで神は、約束の相続者たちに、ご自分の計画が変わらないことをさらにはっきり示そうと思い、誓いをもって保証されました。それは、前に置かれている希望を捕らえようとして逃れて来た私たちが、約束と誓いという変わらない二つのものによって、力強い励ましを受けるためです。その二つについて、神が偽ることはあり得ません。私たちが持っているこの希望は、安全で確かな、たましいの錨のようなものであり、また幕の内側にまで入って行くものです。」

主は今も、ユダヤ人を見捨てておられないことは、彼らが帰還して、国を建てているところからもわかります。同じように、キリストにある約束も堅く、有効なのです。

⁴³ その地は彼らに捨て置かれ、彼らがいなくなって荒れ果てている間、安息を享受する。彼らは自分たちの咎の償いをするようになるが、それはただ、彼ら自身がわたしの定めを退け、わたしの掟を嫌って退けたゆえである。⁴⁴ それにもかかわらず、彼らとその敵の国にいるとき、わたしは彼らを退けず、彼らを嫌って絶ち滅ぼさず、彼らとのわたしの契約を破ることはない。わたしが彼らの神、主だからである。

ここです、これまでの主の御怒りは、罪に定めるための怒りではなく、懲らしめでありました。懲らしめとは、一時期、悲しい思いになることを許されることによって、彼らが立ち返り、罪を捨てて主のところに戻ってくるようにされることでした。ヘブル 12 章では、主の訓練を軽んじてはならないという箴言の言葉を引用して、そしてこういっています。「ヘブル 12:10 肉の父はわずかの間、自分が良いと思うことにしたがって私たちを訓練しましたが、霊の父は私たちの益のために、私たちをご自分の聖さにあずからせようとして訓練されるのです。」

そして、この懲らしめによって、究極的には罪に定められるところから救われるのです。「I コリ 11:32 私たちがさばかれるとすれば、それは、この世とともにさばきを下されることがないように、主によって懲らしめられる、ということなのです。」

⁴⁵ わたしは彼らのために、彼らの父祖たちと結んだ契約を思い起こす。わたしは彼らを国々の目の前で、彼らの神となるためにエジプトの地から導き出したのだ。わたしは主である。」

最後に、エジプトの地から導き出したのだと言って、モーセはしめくります。一度、救った者を失わせることはないのです。神の選びと召しは変わることなく、確かなのです。

4A シナイ山での掟 47

⁴⁶ 以上は、主がシナイ山でモーセを通して、ご自分とイスラエルの子らとの間に立てられた、掟と定めとおしえである。

こうして、シナイ山で主が語られました。モーセは、自分の死ぬ前にも、申命記の最後のところで、モアブの草原で同じことを語ります。彼らが呪いを受け、約束の地から引き抜かれるが、心を尽くして主に立ち返り、主が天の四方から彼らを返してくださるという約束です。

そして、このモーセの警告は、まさにイスラエルの歴史でありました。ヨシュア記から始まり、士師の時代で主に逆らい、サムエルが立てられ、ダビデが王として選ばれてイスラエルに霊的復興が来ますが、ソロモンの晩年に妥協が起こり、そして王国は彼の死後に分裂、それぞれの国で、主に背くことを行っていきました。そして北はアッシリアに、南はバビロンに捕え移されます。歴史は、すでに神が知っておられたことで、それを、モーセを通して教えておられたのです。